

会 議 名	第2回港区立郷土歴史館指定管理者候補者選考委員会
開 催 日 時	平成29年9月22日（金曜日） 午後6時00分から7時50分まで
開 催 場 所	区役所9階 911会議室
委 員	（出席者）安藤委員長、新宮副委員長、須賀委員、若林委員、藤原委員
公認会計士	井上公認会計士
事 務 局	佐々木図書・文化財課長、 文化財係 土井係長、高山主事、桑原主事、川上主事 新郷土資料館整備担当 大江係長
会 議 次 第	1 開会 2 審議事項 （1）財務状況及び資金収支計画の分析結果について （2）第一次審査について （3）第二次審査の選考基準・採点表（案）について 3 その他 4 閉会
配 付 資 料	[配布資料] 1 財務状況分析報告書 1-2 資金計画分析報告書 2 第一次採点結果（事業者A） 2-2 第一次採点結果（事業者B） 3 第二次審査選考基準・採点表(案) 3-2 歴史館業務仕様書（案）
会議の結果及び主要な発言	
事務局	【開会】 【公認会計士紹介・あいさつ】 【配布資料確認】
公認会計士	【財務状況及び資金計画の分析結果報告】 財務状況について、実額ベースも見ているが、規模によっての影響をできるだけ排除するということを目的として、比率をもとに、会社の規模が違って分析ができるようにしています。分析の概要としては、提出された直近3年分の財務会計年度財務諸表の数値をもとに分析をしました。 財務状況につきましては、港区の規定のもと、可、不可で分析、判定しております。今回の指定管理期間、会社が存続できるのか、その期間は問題ないであろうというこ

	<p>とで、事業者A、Bともに可と判定しております。</p> <p>次に資金計画分析です。平成30年度から35年度の6年度分について分析。事業者AはCの普通。事業者Bは少しよいということで、優良と記載しています。事業者AとBとで具体的に違っている項目は、人件費水準。これで差が出ています。</p>
C委員	<p>事業者Aの参考資料2ページ目、人件費の妥当性については、比較的高水準となっておりますが。</p>
公認会計士	<p>事業者Aと事業者Bの比較の他、国税庁の平均給与もでてるので参考にし、総合的に判断しました。金額としては、一人当たり30万円程度の違いになり、事業者Aの人数が多いので、コストに跳ね返ってくる。</p>
副委員長	<p>同じ資料ですが、要注意に丸がついているのは、どう評価したらよいか。この事業者危険ということではなく、今後の話し合いの課題、修正点ととらえればいいのか。</p>
公認会計士	<p>問題ありの場合は、この場で注意喚起などが必要だが、要注意のところは、今後事業をやっていく上で、注意をいただいた方がいいのではないか、そういう注視という意味です。</p>
D委員	<p>注意というのは、事前にお伝えするのか、それとも注視してみればいいのか。</p>
公認会計士	<p>どちらの考え方もあるかと思います。事業者のこの分析の観点だけでは評価しきれない部分もあると思います。選定後、打合せ等で説明をしっかりと聞き、まずは注視していただき、そのなかでも、こういったところをポイントとして、何かあった時には、中心にみていただくと、注意しやすいのではという観点です。</p>
委員長	<p>このAとBの両社が総合評価としてはCとBという評価になっている。5段階評価だからBとCでは差があるように見える。もともと、評価のポイントとして要注意一つの差。AとB、継続的な事業が可能かどうかについては、それほど差がないと判断して良いか。</p>
公認会計士	<p>おっしゃる通り5段階で分けてあり、大きく差があるように見えるが、この2事業者の差はそれほど大きくない。</p>
委員長	<p>分析結果からしても、今回、求めている事業に関して、実施は十分可能、安定的な運営もできると我々は考えていいということか。</p>
公認会計士	<p>はい、そうです。</p>
委員長	<p>財務会計、資金収支計画については、これで終了といたします。</p>
委員長	<p>次ですが、第一次審査について5名の委員から採点表が提出されましたが、委員から簡単に全体、採点表について評価した点、減点した要素など説明をしてもらいたいと</p>

考えている。採点に関して、委員の知識、経験、見識等さまざまな評価のポイントの違いから、採点に差が出ることは当たり前だと考えている。いろいろな観点から見た差のある採点が複数そろふことによって、多様な見方が可能となり、総合的な評価となる。説明をいただくが、自分と違った観点到気が付く、あるいは、自分は評価していなかったが確かに評価をすべき点やマイナスすべき点だと、気が付いたときに修正をする説明であって、ここで差のある採点を調整するわけではない。調整してしまうといろいろと不透明な部分が出てきてしまう可能性があるのでは、あくまで各委員の説明を聞いて、ここは修正した方がいいというところは、考えて修正すべきところを修正するという形で進めていきたい。

委員長

全体の話ですが、今回の2事業者の書類を見て、最初に思ったことは、ある意味当たり前、よい表現をすれば、無難にまとめているという印象。2事業者とも郷土歴史館を運営する水準には達していると、全体の印象。

AとBの事業者、内容を見まして明らかに得意分野とこれまでに経験が少ない分野が違うだろう、というのが提出書類から読み取れた。Aについては実績を見ると、博物館・美術館の指定管理、または指定管理の再委託の仕事等、多くの施設において学芸業務と建物管理を行っており、実績が豊富なため、安心して任せられると感じた。その点に関しては様々なノウハウを蓄積していることが、提案から見えてきていた。Bについては、指定管理の実績をみれば一目瞭然だが、スポーツ施設や公園の指定管理、指定管理になる再委託の仕事をやっているようだが、博物館や美術館の経験は乏しく実績には不安がある。差のついたところは、職員の確保育成、Aの方が複数の博物館や類似施設の指定管理を行っていることもあり、技術センターによる類似施設の研修が明記されていた。これは職員の確保育成に、メリットと考え評価をしました。それから、差がついたところは、郷土歴史館運営の考え方アテンダント業務、学芸支援業務。学芸支援業務として、展示造作等の事業の具体的な提案Bには年間1,320万円の経費が計上されているが、展示造作の支援に関する具体的提案がなく、どのような支援がされるのか不明である。一方、Aには学芸員資格者を配置することを明示しているところは、区へのしっかりした学芸支援姿勢が読み取れ評価できるとともに、展示造作支援についての考えも、博物館のコンサルティングの実績のある丹青社などの支援と具体的な表記があり、説明もなされている点が評価に表れている。さらにカフェも差がついた、これはAの方が具体的な名前を挙げて料理をプロデュースする人の名前を挙げ、また、場所の意味、価値、博物館においては重要と考えているので、人を呼べる、白金を大事にしているところに差がついている。グッズ関係等についても、提示された資料に、川崎市市民ミュージアムの実績が示されているAがポイント高く、Bはアイデアが人から注目を集めるか?と主観が入るが、ここで大きな差が出ている。情報事業、これはともに低いです。これは私が情報系の仕事をしている関係もあるが、あまりにも当たり前すぎて、もっと魅力ある提案があるのでは、と両社ともノウハウを持っていないのかな、と。あとは、安全対策危管理等のところ、実施事業についても、微妙な差がある。こちらは、Bの方が、その場所の特徴特性の提案になっているので、Bの方を若干評価している。安全対策については、Aは当たり前の内容になっており、安全・防災面の提案内容の記載が事業者Bに比べて物足りない。これに対してBは具体例、経験、実績そういったところの豊富さがにじみ出た提案内容となっているので、Bに高い評価を与えた。

副委員長

AとBを比べると委員長と全く同じ意見です。郷土歴史館をいかに魅力的なものにしていくか、集客をどうやったら人に来ていただけるか、といった事業運営面ではAの方が優れている印象。Bはあくまで印象だが、最小限のところを抑えている。危機管理とか、採点表の安全対策危機管理これはBの方が高い。区民の期待が非常に高いということから、Aの事業運営のいいものを作りたいという提案を買っていききたい。具体的には、アテンダント業務関係、単なるアテンダントではなく、来館者説明の指導、専門的な方を入れている提案がいいと思った。また、実績に基づいた計画的な職員配置としており、学芸業務のサポートや展示造作支援も明記されており、提案された職員体制は複数の展示室や複数のフロアにまたがる施設において安定した館運営に期待が持てると感じた。人件費はA、Bとの金額が離れているが、職員数が多いことや役割と責任に応じた人件費を算出していることから評価はできる。純粹に提案を比べるのなら軍配はAになる。カフェ事業も大使館が多い港区、各国大使館シェフ経験者をアドバイスとして迎えるといった、具体的な提案している。オープニングイベント提案もAですし、魅力的提案がされていた。ロケーション撮影、東京都が映画撮影を施設、日本全国世界にも発信できる。港区では進んでいないが、郷土歴史館は是非そういう形をとっていききたいと思っている。その点も評価した。

Bは建物管理と防災・安全面の提案書の記載は充実しており施設運営に関する評価は高い。区の施設なので一番重視しなければいけないところ。安全防止対策はBに軍配があがる。ただし、集客事業の提案が少なく、目標来館者数を達成するという目的を理解しているのか不安があり、区のサポート役であるとの認識があるのではないかと思われる。また、学芸支援担当者が1名しか配置されていないところも不安要素。書きっぷりとも考えられるので、プレゼンテーションの二次で確認をしていきたい。

C委員

AとB、全体でいずれの事業者も面白いと。展示の部分と比べた場合、Aの方が高くなった。たとえば、抱負の部分からAは港DNAなどキャッチが上手。コンセプトがしっかりあるのは評価でき、今後に期待できる。職員の確保、外国語の対応の配置や特に、区との連携に学芸員資格が関わることが明記されており、評価ができる。カフェ事業では、Bも出ているが、Aは具体的にメニュー開発の体制において、開発にあたる方の個人名も明記されており実現性に期待できる。またAは、イベントやワークショップなどの具体的な様子が示されており、来館者目標を達成するための積極的かつ主体的な提案がなされ、本指定管理者に求められる役割を理解していると感じられ、練ったプランが示されている点が評価できる。また、今回応募してきた共同事業体において、同規模の博物館の指定管理者受託の実績があることは評価できる。

Bは他機関との連携に慣れており、教育機関との連携、学校との連携が明記されているところが、特徴的。区民の協働でのキャラクターの作成、地域の方との交流を踏まえての計画は特徴的であり、情報発信や集客イベントなどは実現性が高い提案だと思うが、来館者目標を見据えた提案であるのか不安がある。全体のコンセプトを含めてAの方が評価が高かった。危機管理安全対策、いずれも無難な対応であったとみた。

D委員

書類審査をするにあたり、いくつか自分なりの方針を立てた。まず一つは、何をにおいても学芸員にとって一番いい事業者が選ばれるといいと思った。学芸業務についての言及があるか、それについてどう考えるかということ。文化財を管理する意識を持っ

ているか。二点目は具体性。三点目は色々な業種が入っている建物、入居者が入っているのでつなぎ役になるということから、柔軟性をみました。四つ目は、応募企業が2つだったので、差が出るように点をつけました。結論として、Bの方の点数が高かった。積極的な営業活動、観光客への呼び込み、アピール等具体的なオリジナリティーがよりBの方があると感じた。歴史館運営において、自らの長所を生かしたコンセプトをしっかりと打ち出しているところが評価できる。提案書全体として、最初に考え方、理解を書いた上でブレイクダウンという書き方をしている。郷土歴史館を通してやること、歴史的建造物を活用してこうする、コンシェルジュ的役割を通してこうする、今までの積み重ねがあり、未来はこうありたいという具体的な説明がなされているように感じました。その他にも、所々に学芸員業務に言及がある。郷土歴史資料館を盛り立てて、かつ、全体を引っ張っていく、広い目でみていくという役割が色々なところに出ていた。様式20文化財保護法とか、こういうものに従って管理していく、避難のことについても、指定文化財の考え方をしっかりと書いているため、文化財としての建物の特性は理解できており、施設の維持管理は安心して任せられると思いました。提案事業では、派手さはないけど、地に足がついている企画と思いました。Bの方が、頻度とかできることを考え、現実的であり、無理をしていない。本来やるべき施設の統括運営に力を割いている提案になっている。自分たちに求められている役割を理解していると思われた。来館者促進も現状分析をしており、現在の人数を9倍にするには、ということになっている。カフェメニューとミュージアムショップは、好みになると思うがBの方が、消費者目線と思った。カフェの提案は実際運営すると変わると思うので、今後、変えやすい柔軟な内容だと思った。また、カフェを花と緑の癒しの空間と提案しておりコンセプトが明確で評価できる。ミュージアムショップも、自分だったら、ミュージアムに滞在したいと思った。とはいえ、Aも経験値がある。もしAの書きぶりが、私の判断ですが、提案事業が多く実現が可能なのか不安があるが、もう少しその言葉の先にある具体性が見えてくればいいな、と思いました。私の観点がずれているかもしれないが、各委員の話していた、具体性の部分が自分の視点とずれているのかな、と感じました。

E委員

結果的にAの方の評価が高い。一番差を付けたのが、職員体制勤務体系。スタッフの配置が圧倒的に違った。学芸員資格者を3名配置しており、学芸支援業務を円滑に進めることができると考えられる。また、図書閲覧室には司書資格保有者の配置や総務、広報・営業、経理など担当職員をそれぞれ配置し専門性の高い業務遂行が期待が持てるとともに、区との連携や集客事業の推進においても期待が持てる。また、専門性のある職員を配置しており、こうした点は評価できる。Bは、職員体制が手薄で、この規模の博物館を安定して運営できるのか不安がある。学芸支援業務において学芸員資格者の配置が明示されておらずアテンダントの育成も区任せとなるのではないかとということで評価をつけた。

Aはカフェ事業様式17この辺で展示との連携とか大使館を意識して、良い提案だと思う。様式20ガイドツアーによる一般公開、施設の文化財的魅力を前面に出してアピールしていくことは大事かと思う。様式24、お化け屋敷とか、文化財アートなど、イベントも面白いと思った。危機管理の部分については、一定程度の質の確保がされているので差はつけなかった。Bは、歴史ある建物を管理してきた実績に触れられて良いと思った。様式19では、案内警備清掃保安業務において効率化を図り向上させ

<p>委員長</p>	<p>ることで、運営をうまくやっていきますという提案になっていたもので、評価をしました。</p> <p>ありがとうございます。今各委員から説明いただいたが、説明を漏らした、補足等がありますか。</p> <p>私から、今回の資料について注意してみなければいけないところは、資金収支計画上の金額が両社ともに大きく違っている。中をみると、時期に差があるのと、事業運営費。Bは629万、Aは4千万。これは事業内容の提案内容に関係してくるところなので、Bでは具体的な事業提案のところに若干の点が伸びなかったところに絡んでいるのかと。そこをどう考えるか、今回の提案は全体の金額を決めて提案を出してもらっているわけではない。各委員で判断してもらおうところだが、事業運営費のところ、これは考慮してもいいのかな、というところと思います。</p> <p>その他ございますか。ないようでしたら、採点の修正をされる委員の方は事務局に修正した採点表を提出してください。</p>
<p>委員長</p>	<p>それでは、最終的に、一次審査の結果は、事業者A 686点 事業者B 678点ということになります。</p> <p>(全員了承)</p>
<p>委員長</p>	<p>次に、第二次審査の選考基準採点表について、事務局から説明願います。</p>
<p>事務局</p>	<p>事務局説明</p>
<p>委員長</p>	<p>一次審査200点、二次審査100点はこの前も変更なかったが、これについて、配点に関して何か変更すべきご意見があれば頂戴したい。事業提案の実現性について点数に差をつけることもできますが、いかがですか。</p>
<p>C委員</p>	<p>最後の項目、資質ですか、評価し難いなど。</p>
<p>委員長</p>	<p>指定管理者として歴史館を運営するのが可能かと、ここでは資質となっているが、財政的などところではないということ。審査のポイント、個別の上3つと全体をみて総合評価、独立した点を与えるということは考え方として間違っていないと思いますので。この選考基準採点表でよろしいかと思いますが、承認ということでもよろしいでしょうか。</p> <p>(全員承認)</p>
<p>委員長</p>	<p>この案のとおりで承認いたします。</p>
<p>委員長</p>	<p>【開会】 それでは委員会を終了します。</p>

